

「木の文化 ～伝統を未来につなぐ～」

主催：一般社団法人日本木材学会、NPO法人才の木
後援：林野庁、公益財団法人美術院

日時：2024年3月14日（木）15:00-17:15

会場：京都大学時計台百周年記念ホール

（京大正門前バス停より徒歩5分・京阪/叡電出町柳駅より徒歩20分）

入場無料
参加申込不要
どなたでも聴講
できます

開会の辞 梅村 研二 氏（京都大学生存圏研究所）

来賓挨拶 青山 豊久 氏（林野庁長官）（録画）

田中 禎彦 氏

（文化庁文化財第二課課長）

「我が国の木造文化財建造物の魅力」



岩下 淳 氏

（公益財団法人美術院国宝修理所所長）

「木造彫刻の文化財修理について」



中村 力也 氏

（宮内庁正倉院事務所保存課長）

「奈良・正倉院にみる木の文化」



杉山 淳司 氏

（京都大学大学院農学研究科教授）

「引き継ぐための科学的検証」



閉会の辞 高部 圭司 氏（NPO法人才の木理事長）

「木の文化 ～伝統を未来につなぐ～」 講演要旨

「我が国の木造文化財建造物の魅力」

伝統的な日本の建築の特徴として3点をあげることができる。

1つめは、木造建築であること。豊かな森林環境を持つ国として、木材は日本建築の基本的な材料である。

2つめは柱梁構造を持つこと。すなわち柱・梁などの構造材が直交し、継手・仕口で結合され、楔や栓で固められる。

3つめは、屋根構造とその材料に着目したい。三角形の屋根が大きく軒先に張り出す姿も、日本建築の大きな特徴である。この深い軒は雨の多い気候に対応したものである。さらに伝統的な屋根の材料には有機的な材料、たとえば茅、檜皮、こけらなどが用いられ、それらは周期的な屋根葺替が必要となる。

すなわち、我が国の伝統建築の特徴として、ヒノキや杉、ケヤキなどの恵まれた針葉樹林を背景に、きわめて精緻な木造建築技術を発達させてきた。

そして、火災や自然災害に脆弱な材料を使用した建造物を継承するため、木造建築修理の長い歴史をもつ。それは洗練された木工技術、修理中の徹底した調査、解体をともなう修理を特徴とする。

この報告では、豊かな森林環境を背景として、今日まで継承されてきた日本の伝統木造建築の魅力をつたえるとともに、その継承に必要な修理などの実際について説明したい。

田中 禎彦 氏 プロフィール

文化庁文化財第二課長。博士(工学)。近代建築史/文化財保存。1969年生まれ。京都大学工学部建築学科卒業、同大学大学院生活空間学専攻修了、同博士課程中退。文化庁文化財調査官、ICCROM(文化財保存修復研究国際センター、在ローマ)プログラムマネージャー、山梨県学術文化財課長、文化庁主任文化財調査官などを経て2023年より現職。著書に『日本人建築家の軌跡』(至文堂)、『日本の建築空間』(共著、新建築社)、『死ぬまでにみたい洋館の最高傑作』(監修、エクスナレッジ)、『日本の最も美しい名建築』(エクスナレッジ)等。

「木造彫刻の文化財修理について」

文化財に指定されている仏像などの修理事例の紹介と文化財修理の考え方についてお話ししたいと思います。

岩下 淳 氏 プロフィール

1986年 別府大学文学部美学美術史学科卒業。

1988年 財団法人美術院(現・公益財団法人美術院)入所。専門は木工。

主任技師・修復部長・国宝修理所副所長を歴任。

2022年 国宝修理所所長 就任(現在に至る)。文化財修理歴35年。

【これまでに携わった主な修理】

〈国宝〉京都・平等院 木造阿弥陀如来坐像(鳳凰堂)

〈国宝〉奈良・東大寺 木造金剛力士立像(南大門)

〈国宝・重文〉奈良・東大寺 乾漆不空羂索観音立像ほか法華堂諸仏

〈重文〉奈良・東大寺 木造如意輪観音・虚空蔵菩薩坐像(大仏殿)

〈国宝〉奈良・唐招提寺 木心乾漆千手観音立像

〈重文〉奈良・金峯山寺 木造金剛力士立像

〈重文〉奈良・桜井市忍阪区 石造浮彫伝薬師三尊像

「奈良・正倉院にみる木の文化」

奈良・東大寺の境内にある正倉院には、8世紀に建てられた木造の宝庫と、勅封により管理されてきた宝物とが一体となった形で、世代を超えた人々の手によって伝えられてきました。正倉院宝庫・宝物に見える我が国古代の木の文化を、科学的観点から紹介します。

中村 カ也 氏 プロフィール

2004年 名古屋大学大学院生命農学研究科博士後期課程修了、同年名古屋大学博士研究員

2005年 宮内庁正倉院事務所保存課研究職員採用

2022年～宮内庁正倉院事務所保存課長

専門分野：文化財における有機素材の材質分析、修理に関わる研究

「引き継ぐための科学的検証」

木材の組織には、樹木が環境に適応して生きるための工夫やアイデアが満載です。太陽エネルギーが生む素材のみを利用して、長い進化の時を経て最適化された個性といえるでしょう。先人らは、そのような生物の個性をよく理解していたと思います。現場の方々との対話から学んだ、引き継がれる伝統技術や材料選択にかかわる話題を通して、文化財と木材学の交差について紹介します。

杉山 淳司 氏 プロフィール

1983年京都大学農学部卒業。東京大学農学部助手、京都大学木質科学研究所助教授、同生存圏研究所教授をへて、2020年より現職。日本学術会議会員(26期)、セルロース学会ならびに日本木材学会元会長。専門はセルロースならびに木材構造学。